

日本医師会・日本医学会合同シンポジウム
子宮頸がんワクチンについて考える

日時 : 平成26年12月10日 (水) 13:00~16:30

場所 : 日本医師会館大講堂

座長 : 高久 史磨 (日本医学会長)

総合司会 : 小森 貴 (日本医師会常任理事)

講演者 : 小西 郁生 (京都大学)

倉根 一郎 (国立感染症研究所)

西岡 久寿樹 (東京医科大学医学総合研究所)

横田 俊平 (国際医療福祉大学)

宮本 信也 (筑波大学)

奥山 信彦 (J R 東京総合病院)

池田 修一 (信州大学)

牛田 享宏 (愛知医科大学学際的痛みセンター)

シンポジウム「子宮頸がんワクチンについて考える」（平成26年12月10日開催） 各発表の概要

H P Vワクチンについて、様々な立場の研究者が参加し、シンポジウムが開催された。各発表の概要は以下のとおり。

- **小西郁生氏**は、産婦人科の立場から、H P Vワクチンの有効性について発表した。
- **倉根一郎氏**は、副反応検討部会委員として、これまでの副反応検討部会・安全対策調査会における議論を説明した。
- **西岡久寿樹氏**は、HPVワクチン接種によって亜急性に重層化する臨床スペクトルを呈する新たな病態としてH A N S症候群を提示し、シナプスの障害による病態の可能性を唱えた。
- **横田俊平氏**は、H A N S症候群を改めて説明するとともに、H P Vワクチンに含まれるタンパク質及びアジュバント等が原因である可能性を唱えた。
- **宮本信也氏**は、H P Vワクチン接種後に生じた症状の治療法の1つの考え方として、解釈モデル等に基づく治療について説明した。
- **奥山信彦氏**は、H P Vワクチン接種後に痛み等を呈した症例について、外傷後に類似の症状を呈した症例と併せて、軽快症例も含め、治療経過を説明した。
- **池田修一氏**は、H P Vワクチン接種後の症例では、H P Vワクチン接種により、自律神経障害、関節炎、高次脳機能障害が起こっているとした。
- **牛田享宏氏**は、慢性痛の生物心理社会モデルの考え方に基づいた、H P Vワクチン接種後の症状に対する治療法、及びその治療による改善率等について説明した。

シンポジウム「子宮頸がんワクチンについて考える」（平成26年12月10日開催）
座長とりまとめ事項

最後に座長から、「今回の専門家の先生方の意見を聞くと、副反応について解決した上で、HPVワクチン接種をすすめていくべきと考える」とした上で、とりまとめ事項として以下の発言があった。

1. HPVワクチン接種後に発生した症状とワクチンとの因果関係の有無および病態については、本日のシンポジウムでも示されたように、専門家の間でもいくつかの異なる見解がある。今後も専門家による究明の努力が重要であると考えます。
2. これらの症状を呈した被接種者に対しては、HPVワクチン接種との因果関係の有無や病態にかかわらず、その回復にむけて、日本医師会・医学会が行政とともに、治療・支援体制を強化することが大切である。
3. ワクチンには接種をすることによるリスクとしないことによるリスクの両面があることを踏まえ、国においては、引き続きワクチン接種のあり方について、現時点で得られている科学的根拠に基づいた検証を行い、結論を得るべく努められたい。